

ダイワ新興企業株ファンド 運用哲学～未来の大企業への投資～

2018年4月27日

平素は、『ダイワ新興企業株ファンド』をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
今回は、担当ファンドマネージャーの運用哲学や最近の運用状況などについてお伝えさせていただきます。

＜基準価額・純資産の推移＞

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2018年4月20日現在

基準価額	20,811 円
純資産総額	79億円
JASDAQ指数	174.09

期間別騰落率

期間	ファンド	JASDAQ指数
1カ月間	-1.5 %	-1.6 %
3カ月間	-2.1 %	-6.0 %
6カ月間	+22.0 %	+8.6 %
1年間	+58.6 %	+35.4 %
3年間	+97.1 %	+53.7 %
5年間	+190.4 %	+104.3 %
年初来	+3.5 %	-0.6 %
設定来	+161.7 %	+81.2 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応当日までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※JASDAQ指数は当ファンドのベンチマークではありませんが、参考のため掲載しています。

※グラフ上のJASDAQ指数は、グラフの起点時の基準価額に基づき指数化しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡す「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management

＜上位10銘柄のご紹介＞

2018年3月末時点

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

※比率は、純資産総額に対するものです。

	銘柄名	東証33業種名	比率
	銘柄紹介		
1	パピレス 電子書籍配信サイト「電子書店パピレス」や電子書籍レンタルサイト「Renta」などを運営。電子書籍の販売・配信の先駆者的企業で、電子書籍市場の拡大に伴う成長が期待できる。最近では、政府が海賊版サイトへの対策に力を入れていることも追い風になっている。	情報・通信業	4.3%
2	トレンダーズ SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)等で女性を中心とする口コミを活用したマーケティングを行う。Instagramは利用者拡大が続いており、インフルエンサーを活用するSNSマーケティングで業績拡大が期待される。若者のTV離れが進む中、企業が広告予算をマスメディアからソーシャルメディアにシフトしていることで恩恵を享受すると期待している。	サービス業	3.6%
3	ドリコム ゲームの開発などを行う。アプリゲームでは、自社開発から他社著作権ゲーム(他社IPゲーム)を活用した戦略に転換したことで安定した利益成長の可能性は高まる。また、バンダイナムコホールディングスと共同で、HTML5を活用したブラウザの新サービスenza(エンザ)を開始し、新たなゲームのプラットフォームになることを目指している。	情報・通信業	3.3%
4	エニグモ ファッション中心の電子商取引サイト「BUYMA(バイマ)」を運営。海外在住のパーソナルショッパー(出品者)から世界中のアイテムを購入できるソーシャルショッピングサイトに特徴がある。海外限定商品が日本で購入できること、ショッピングのEC(電子商取引)化率の向上により中長期的な成長が期待される。	情報・通信業	3.1%
5	ハーバー研究所 化粧品および栄養補助食品などの製造・販売を行う。無添加にこだわった基礎化粧品が女性からの支持を集める。「スクワラン」が代表商品。販路の主体は通信販売だが、直営店や百貨店にも展開している。今後は、デジタルマーケティング強化による新規顧客の獲得や顧客の固定化などが期待される。	化学	2.9%
6	エスケーエレクトロニクス 大型液晶パネル用フォトマスクで世界首位。中国液晶メーカーは設備投資を積極的に行っており、第10.5世代向けフォトマスク市場で唯一の製造メーカーとして同社はその恩恵を受けることが期待される。	電気機器	2.9%
7	内外テック 半導体製造装置の部品の仕入れ販売、受託製造事業を行い、東京エレクトロンへの依存度が高い。スマートフォンの高機能化、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)などの利用拡大に伴うデータ量の増加により、半導体需要の拡大が期待される。	卸売業	2.8%
8	NMS ホールディングス 製造派遣・製造請負、効率生産を実現するEMS(製造受託)、電源製品の開発・製造・販売の3つの事業を行い、顧客の様々なニーズに対応することが強み。人手不足による人材派遣の需要拡大、製造業で直接雇用から派遣会社を活用した間接雇用へのシフトが追い風に。また、EV分野のリチウムイオン二次電池パックの開発・市場投入も進める。	サービス業	2.7%
9	アバールデータ 半導体製造装置など各種機器用モジュールメーカー。スマートフォンの高機能化、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)などの利用拡大に伴うデータ量の増加により半導体需要は拡大していくことが期待される。また、様々な分野で検査工程を自動化する需要が高まっており、同社の画像製品の需要拡大が期待される。	電気機器	2.7%
10	インターネットインフィニティ リハビリ型通所介護「レコードブック」を展開。「ケアマネジメント・オンライン」を運営し、全国のケアマネジャーの約60%と繋がりを持っていることが強み。要支援から軽度の要介護者の健康・運動機能レベルの維持に貢献し、政府が掲げる「健康寿命の延伸」に取り組む。	サービス業	2.6%

■当ファンドのコンセプト

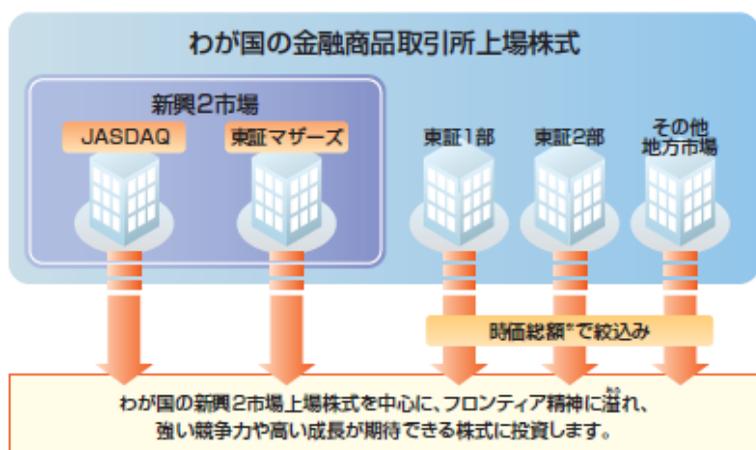
当ファンドでは、主にわが国の新興2市場（JASDAQ・東証マザーズ）上場の株式の中から、フロンティア精神に溢れ、強い競争力や高い成長が期待できる株式に投資し、徹底したボトムアップリサーチにより、業績拡大が期待できる企業に投資を行っています。

フロンティア精神に溢れる企業では、ブルーオーシャン（競合相手のいない領域）の市場で先行者メリットを享受できる企業、社会課題の解決に挑む企業、技術革新に挑む企業などのように新しい価値創造を行い、世の中にイノベーションを起こす斬新なビジネスや、エンドユーザーの利便性が増したり心が豊かになるような商品やサービスを提供する企業などに注目します。

強い競争力のある企業では、高い商品開発力や技術開発力などを有し、競争に打ち勝つことができる企業に注目します。新しい商品やサービスをイノベーションを伴って開発する能力のある企業、または、ニッチ市場での確固たるポジションを築いている企業、価格競争力や技術優位性のある企業などが該当します。

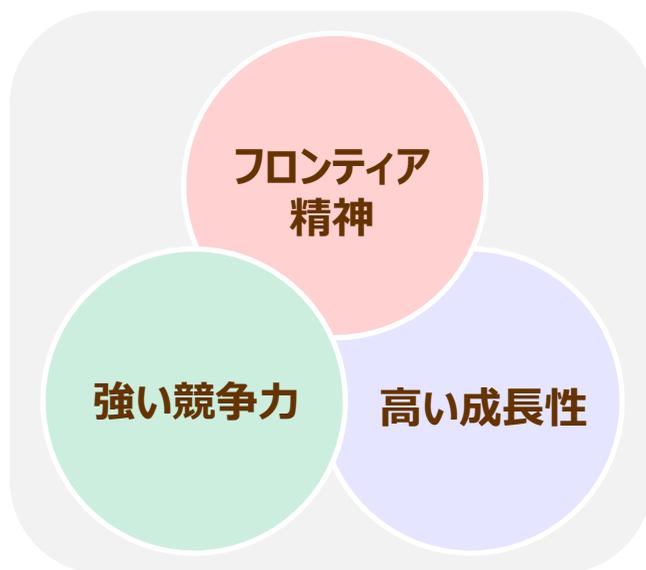
高い成長が期待できる企業では、上記のフロンティア精神に溢れる企業や強い競争力によるシェアの拡大が期待できる企業に加え、独自のビジネスモデルで成長が期待できる企業や、その企業がビジネスを行っている市場の成長性や市場規模などにも注目して銘柄を発掘していきます。

当ファンドの投資対象ユニバース



※ 新興2市場上場株式以外の株式の取得については、直近決算日における時価総額が委託者の定める一定水準以下の銘柄に限定することを基本とします。なお、取得後に時価総額が当該一定水準を超えても保有に制限は設けません。当該一定水準は、直近決算日（平成29年7月13日）現在では、時価総額2,000億円としています。

企業に期待する3つのポイント



■ 未来の大企業を発掘するために～担当ファンドマネージャーからのメッセージ～

2016年12月末に当ファンドの運用担当者となって以来、積極的に勢いのある中小型銘柄への入れ替えを行っています。銘柄を発掘する際は、まず前提として「優れたビジネスモデルを有するか」を事業会社との面談などを通じて確認します。エンドユーザーにメリットがあり支持が高く、儲ける仕組みが上手くできているビジネスモデルを有する企業は持続的な利益成長が期待できるからです。逆に言うと、ビジネスモデルの仕組みが良くないと利益成長は長続きしないと考えられます。

次に、世の中の大きなトレンドを考えることを重要視し、構造的要因でその潮流に乗って業績拡大が期待できる企業に注目します。例えば、日本の高齢化による人手不足や働き方改革、女性活躍、健康寿命の延伸への取り組み、インターネットの普及によるデジタル化などで業績を拡大する企業などが該当します。このような未来の社会構造の変化をつかむために、国策、人々のライフスタイルの変化、流行やトレンド、技術革新の進展などをアナリストと協力の下、事業会社との面談やインターネット、日々の生活などから情報収集しています。

その他にも、必須ではありませんが、「経営者の持ち株比率が高いか」などにも注目しています。経営者の持ち株比率にも注目するのは、一定の保有比率を維持することにより運命共同体意識が芽生えることを期待しているからです。中小企業が大企業へ飛躍していく過程では、成長の壁にぶち当たることも多くありますが、経営陣の強い運命共同体意識によりその壁を乗り越え、更に強い企業に飛躍するための突破力になることを期待しています。

それから、最後に、大切だと思っていますのが、自身の期待感、ワクワクする感覚の有無です。エンドユーザーの事業評価やブランドへの期待感と重なることも多く、第六感的な感覚ですが、投資の上で大切にしたいと思っています。

全ての条件を満たす企業というのは少ないですが、これらの条件を満たすほど成長が期待ができます。

未来の大企業を発掘するポイント

- ✓ 優れたビジネスモデルを有するか
- ✓ 世の中の大きなトレンドに乗っているか
- ✓ 経営者の持ち株比率が高いか
- ✓ ワクワク感があるか

最近の注目テーマ



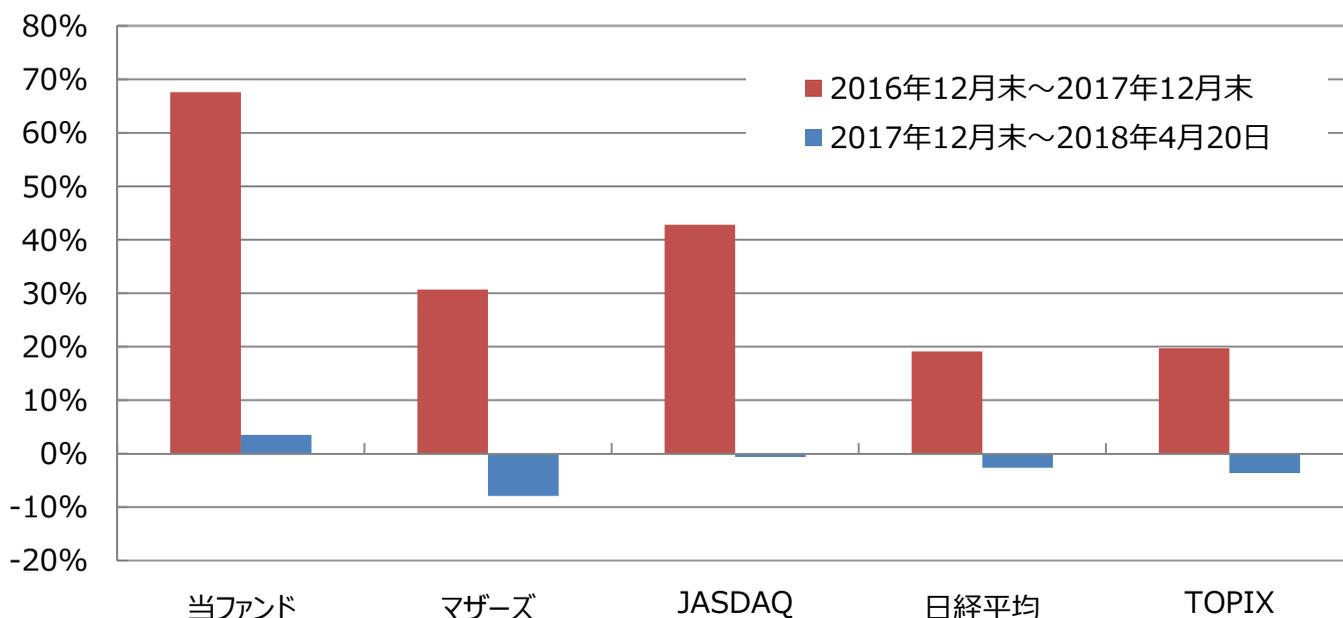
■ 当ファンドの最近の運用状況

当ファンドでは、主にわが国の新興2市場（JASDAQ・東証マザーズ）上場の株式に投資を行っています。

2017年は、政府の進める働き方改革や日本の少子高齢化により需要が高まる人材関連銘柄や、電子書式やネット広告などインターネットへのシフトにより恩恵を受ける情報サービス関連銘柄、インバウンド需要の増加により業績拡大が見込まれた化粧品などの美容関連銘柄などに投資を行った結果、当ファンドの基準価額は大幅に上昇しました。

2018年の2月以降、世界的な株価下落となった際には、流動性の低い中小型銘柄の下落率は大きくなり、当ファンドのパフォーマンスも悪化しました。しかし、市場の沈静化に伴い中小型株が大幅に反発したことや、円高の進行により当ファンドで組み入れを多く行っている内需関連株が選好されたことなどにより、当ファンドの年初来パフォーマンス（4月20日まで）は、主要株価指数の騰落率を上回って推移しています。

当ファンドと主要株価指数の騰落率



※ 当ファンドのパフォーマンスは分配金再投資基準価額を使用。

※ 各種株価指数は、プライス・リターンを使用（マザーズ・・・東証マザーズ株価指数、JASDAQ・・・JASDAQ INDEX、日経平均・・・日経平均株価、TOPIX・・・東証株価指数）。

※ 使用した指数については7ページ目をご覧ください。

（出所）ブルームバーグ

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

■ 中小型・新興企業銘柄への投資環境について

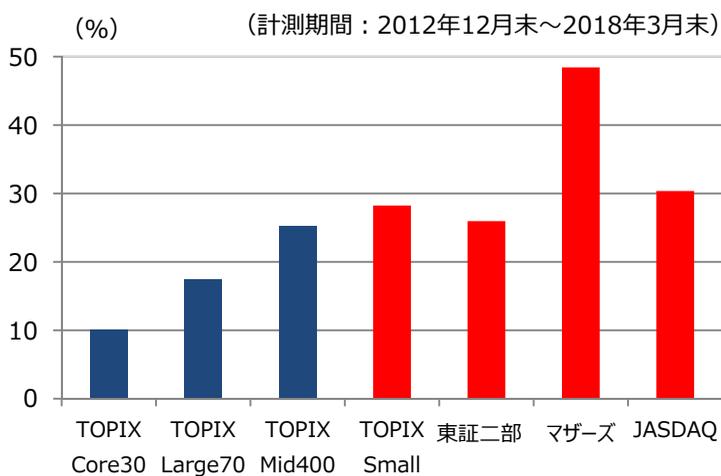
中小型・新興市場銘柄は、リーマン・ショックの後、大きく値下がりしましたが、ここ数年はパフォーマンスも良好で、IPO（新規株式公開）を行う企業数も高水準で推移しており、投資環境は改善傾向にあると考えています。

中小型・新興市場銘柄は、一般的に大型株に比べて成長余地が大きく、株価が大幅に上昇する銘柄数の割合が高い傾向があります。2012年末から2018年3月末までのパフォーマンスを計測した場合、マザーズ市場の銘柄で4割以上、JASDAQ市場の銘柄で約3割の銘柄の株価が3倍以上になりました。

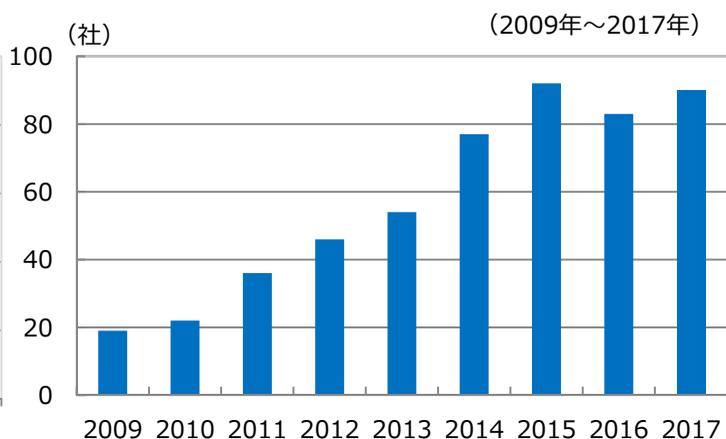
また、リーマン・ショック後に激減したIPO企業数も復調傾向にあり、ここ数年は年間80～90社程度の水準を維持しています。最近では、スマートフォンの普及やさまざまな技術革新を背景に、フィンテック（金融とITの融合）やAI（人工知能）関連の事業を行う企業の上場も目立ちます。独自のビジネスモデルを有する魅力的な新興企業の株価は、初値上昇率も高く、上場後も堅調に推移しています。

中小型・新興市場の良好なパフォーマンスを評価した資金流入の増加や、フロンティア精神に溢れる新興企業の上場動向に注目が集まっており、当ファンドでの投資機会も拡大していくことが期待されます。

株価が3倍以上になった銘柄数の割合



新規上場会社数の推移



※ 2018年3月末時点の各インデックス構成銘柄のうち2012年12月末と2018年3月末時点の両方でデータが取得できる3,020銘柄を対象に、市場別・規模別に集計しています。

※ 騰落率はプライスリターンを使用して算出しています。

※ TOPIX Core30等の、TOPIX ニューインデックスシリーズの詳細については、P.7をご参考ください。

(出所) ブルームバーグ、日本取引所グループのデータより大和投資信託作成

※ テクニカル上場を除く

(出所) ブルームバーグ、日本取引所グループ、名古屋証券取引所、札幌証券取引所のデータより大和投資信託作成

■ 今後の運用方針

国内株式市況は、中央銀行による引き締め方向への政策転換に対する警戒感、米中貿易摩擦への懸念など不透明感が強い状況となっておりますが、グローバルで景気は総じて堅調に推移していること、日銀のETF（上場投資信託）買入れなどにより良好な需給環境の継続が想定されることなどから、短期的に不安定となる局面はあるものの、次第に落ち着きを取り戻すと想定しております。

銘柄選択においては、健康寿命の延伸により恩恵を受ける健康関連銘柄、人手不足と働き方改革により恩恵を受ける人材関連銘柄、電子書籍やネット広告などのようにインターネットへのシフトが進むことにより恩恵を受ける銘柄、インターネットの活用で効率化できるサービスを提供する銘柄、人手不足による省人化ニーズの恩恵を受けるロボット関連銘柄、IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）などの利用拡大に伴うデータ量の増加により恩恵を受ける半導体関連銘柄、高齢化社会で需要の増加が見込まれる介護関連銘柄、後継者問題で需要の増加が見込まれるM&A（企業の合併・買収）仲介関連銘柄、インバウンド需要増加の恩恵を受ける化粧品などの美容関連銘柄など、主に成長市場でビジネスを行い業績拡大が期待できる銘柄を中心に投資を行っていく方針です。

ポートフォリオにつきましては、新興2市場を中心に、フロンティア精神に溢れ、強い競争力や高い成長が期待できる銘柄を中心に投資していく方針です。

今後も、上記の見通しの下、長期的に市場全体の値動きを上回る超過収益の獲得をめざしてまいりますので、引き続き、当ファンドをご愛顧くださいますようよろしくお願い申し上げます。

（以上）

当資料で使用した指数について

- 東証株価指数（TOPIX）、東証第二部株価指数、東証マザーズ株価指数、JASDAQ INDEX、TOPIXニューインデックスシリーズは株式会社東京証券取引所が算出・公表などの権利を有する指数です。
- TOPIXニューインデックスは、時価総額、流動性の特に高い30銘柄を「TOPIX Core30」、Core30に次いで、時価総額、流動性の高い70銘柄を「TOPIX Large70」、Large70に次いで時価総額、流動性の高い400銘柄を「TOPIX Mid400」、Core30、Large70、Mid400以外のTOPIX構成銘柄を「TOPIX Small」としています。
- 日経平均株価は、日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって算出される著作物であり、同社は、日経平均株価自体及び日経平均株価を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。同社は、日経平均株価の計算方法など、その内容を変える権利及び公表を停止する権利を有しています。

ダイワ新興企業株ファンド

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- わが国の株式の中から、フロンティア精神に溢れ、強い競争力や高い成長が期待できる株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざします。

ファンドの特色

- わが国の新興 2 市場（JASDAQ および東証マザーズ）上場株式（上場予定を含みます。）を中心に投資します。
 - ・ボトムアップ・アプローチによる企業の成長性やバリュエーション等の調査・分析に基づき組入銘柄の選定を行います。
 - ・企業の潜在的な成長性の獲得と流動性の確保をめざして幅広く分散したポートフォリオを構築します。
- ※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動（価格変動リスク・信用リスク、発行企業が小規模もしくは新興企業であるリスク等）」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限>3.24%(税抜3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.6416% (税抜 1.52%)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

ダイワ新興企業株ファンド 取扱い販売会社

販売会社名 (業態別、50音順) (金融商品取引業者名)		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。